

2024年度(総合型選抜)AO選抜入学試験

国際関係学部「国際関係学専攻講義選抜方式」

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
国際関係学専攻	63	39	28

(2) 本入学試験の目的

「国際関係学専攻講義選抜方式」では、国際関係学部 国際学学科 国際関係学専攻の入学を志望し、国際社会の諸問題に対して高い関心と探求心を持ち、自発的に学習に取り組むことができる方を受け入れるための入試方式です。

単なる学問的な理解力や分析力だけではなく、国際社会の諸問題を自分事として捉え自らの考えや意見をしっかりと持ち、将来的に、行政・経済・文化・平和といった観点から社会に貢献できる可能性を秘めた方の選抜を目的としています。

2. 試験内容

(1) 第1次選考

第1次選考は、エントリーシートの作成を出題しました。エントリーシートの内容は以下の通り。

「立命館大学の国際関係学部で学びたい分野やテーマと、なぜそれらを学びたいのかを、あなたの経験と関連させながら記述してください。」(1,000字以内)

また、英語外部資格試験証明書の提出も求め、基礎的な英語運用能力の確認を行いました。

(2) 第2次選考

第2次選考では、20分間の「講義」、60分間の「グループ・ディスカッション」試験ならびに20分間の「小論文」試験を実施しました。講義については、「グループ・ディスカッション」と「小論文」試験のテーマ・情報提供として位置づけ、実際の評価は「グループ・ディスカッション」と「小論文」の試験を通じて行いました。

グループ・ディスカッションのテーマは「アメリカ合衆国における『アジア系アメリカ人に対するヘイト・クライム』の増加の原因を探求し、アメリカ社会において人々はどのような対策を講ずることができるのか。それぞれ根拠を示しつつ、誰にどのような影響があることが想定されるかを考慮しながら、具体的に議論してください。」としました。そのうえで、小論文の問題を「本日の講義を参考にしつつ、身近にある、あるいは自分の関心のある出来事の中で、人種差別より生じたと思われる問題について、どのように対応すべきか・すべきだったかについて自分の考えを述べてください。」とし、受験者に作文を指示しました。

3. 出題の意図

(1) 第1次選考

第1次選考では、自分自身の経験を基に志望動機や学習計画について確認するための設問を設定しました。次項「評価のポイント」で詳細を述べますが、受験者自身の経験や体験、その他の具体例を交えて記載してもらうことで、受験者の意欲や態度、知識について確認することを意図して出題しました。また、あわせて受験者の文章作成能力を測ることも目的としていました。

(2) 第2次選考

1) グループ・ディスカッション

本年の講義テーマは、「アジア系アメリカ社会の現状と課題」です。グループ・ディスカッションは、3つのグループに分かれて実施されました。ディスカッションテーマとして、「アメリカ合衆国における『アジア系アメリカ人に対するヘイト・クライム』の増加の原因を探求し、アメリカ社会において人々はどのような対策を講ずることができるのか。それぞれ根拠を示しつつ、誰にどのような影響があることが想定されるかを考慮しながら、具体的に議論する」ことを提示しました。本グループ・ディスカッションでは、講義テーマを受けて、現状の理解とそこに現れる課題の解決に向けて、多様な観点から主体的に考えてもらうことを重視し、講義内容および他受験生の意見を聞き理解する力、自己の意見を整理し発言・討議する力を見ることを目的にしました。

2) 小論文

小論文では、二項対立のおよび一般論的な意見でのではなく、多様な意見を踏まえて、オリジナリティのある自説を論理的に展開することを重視しました。そこで、「本日の講義を参考にしつつ、身近にある、あるいは自分の関心のある出来事の中で、人種差別より生じたと思われる問題について、どのように対応すべきか・すべきだったかについて自分の考えを述べる」ことを求めました。本小論文は、より自由度の高い問いにすることで、問題意識の深さ、自己の意見を論理的にまとめる力、そして文章の構成力を見ることを目的としました。

4. 評価のポイント

(1) 第1次選考

エントリーシート全体を通して、受験生が国際関係学部で何を学び、どのような活動に取り組みたいと考えているのか、学部での学びを生かして将来どのような取り組み（就職や大学院進学など）を展開したいのかという点に着目しました。

入学後に学びたい分野やテーマについては入学以前の段階であることを考慮し、ある程度漠然としたイメージであることは許容したうえで、受験生自身の経験や体験とつながりを持って記述できているか、単なる印象論に留まることなく国際社会の諸問題への関心や知識などについて、可能な限り具体的に記述することができているかを評価しました。また、国際社会の課題に高い関心を持ち国際関係学部での学びに対して高い意欲を有しているかを評価しました。

加えて、文章表現の正確さや説得力、論理構成なども評価の対象としました。

(2) 第2次選考

1) グループ・ディスカッション

グループ・ディスカッションでは、受験者の「議論に対する積極性」、「発言の的確性」、「議論の整理と要約力」、そして「表現力」について評価しました。また、限られた発表時間の中で自身の考えをまとめ、簡潔に他者に伝えることができるか、また他者の意見を尊重したうえで、自身の考えを伝えることができるかという点も評価しました。

2) 小論文

小論文では、受験者の論理的思考力および表現力（質問に対する応答の的確性・内容の一貫性・簡潔・明瞭性等）を中心に評価しました。こちらも20分の限られた時間の中で、講義およびグループ・ディスカッションを通じて整理した自身の考えを、文字を通じて論理的かつ分かりやすく表現できているかという点を評価しました。

5. 解答状況

(1) 第1次選考

立命館大学国際関係学部の「国際関係学専攻講義選抜方式」入学試験は、本学国際関係学部を志

望し、自分なりの視点から国際関係を考察し、創造することのできる能力に優れた人を受け入れるための入試方式です。つまり、学校で勉強して身に着ける理解力や分析力だけではなく、自らの考えや意見をしっかりと持ち、それにもとづいて平和で豊かな新しい国際関係を創造していくことができる人を選抜する試験です。したがって、受験生自身の経験や体験にもとづいた内容であることが強く求められました。国際社会についての関心の度合いや学習意欲が評価の中心となり、「入学後に学びたい分野やテーマ」に関しては、まだ入学以前の段階ですので、それほど細かく絞り込む必要はありませんが、受験生自身の経験や体験が、単なる印象にとどまることなく、国際政治や国際経済などの具体的な分野やテーマに結びついているかについて着目しました。また、文章表現の正確さや説得力、論理構成なども評価の対象としました。

(2) 第2次選考

1) グループ・ディスカッション

コロナ禍により、アジア系アメリカ人に対する偏見・差別が拡大したアメリカ社会の現状を踏まえ、アジア系アメリカ人に対するヘイト・クライムの原因を参加者全員が積極的に議論しました。①大量の移民の流入といった歴史的要因、②異人種間の格差という経済的要因、③無知が生み出す恐怖や不安といった心理的要因、④SNSといったメディアの影響という現代社会的な要因など、講義の内容を踏まえ、他のメンバーの意見を基に、多面的な視点からディスカッションが行われました。ただし、グループによっては講義内容を十分に考慮できていない意見が出された場面もありました。

また、ヘイト・クライム対策としては、どのグループにおいても一貫して情報の真偽を見極めるメディアリテラシーの必要性と異文化を学ぶ文化交流を行う機会を設けるなど、教育の重要性について論じられました。特に、SNSやマスメディアにおける影響力のある人の発言が社会に及ぼす影響について、受験生の高い問題意識を感じるディスカッションでした。また、司会を皆で決め、積極的に関与し、スムーズにディスカッションを進めていた点、講義の内容や他者の意見を基に、持論を展開していた点が良好でした。

2) 小論文

上記のアメリカ社会における差別の議論を踏まえて、身近に起こる差別について認識し、独自の考えを論理的にまとめることを求めました。全体としては、グループ・ディスカッションの影響が強く見られ、アメリカ社会における差別を掘り下げたものや日本に在住する外国人、特に外国人労働者に対する差別を取り上げたものなど、身近に起こる差別というよりも、一般的な問題を取り上げたものが多く見られました。中には留学先で経験した差別や受験者の周りで起こった事例を挙げたものが幾つかありました。身の回りで起こった差別の原因をエビデンスに基づき独自に論理的に分析し、さらに差別を解消するに至った経緯を具体的に説明した、批判的な思考と問題解決の意識の深さを表す小論文が高い評価を得ました。また、人種差別をジェンダーの差別に拡大し、多様性を受け入れる教育を論じたものもありました。

6. 次年度の受験生へのアドバイス

第1次選考では、日々の経験や体験の中に国際関係にかかわる事象を発見し、それを深く考え抜く能力が問われます。もちろん、その経験や体験というのは、長期留学や異文化体験だけを指しているわけではありません。ふとした日常体験の中にも、複雑な国際関係が色濃く影を落としているものです。まずそれに気づく力、持続的に考え続ける力、そして社会問題全般に対する問題意識を日々磨いていってください。また、学部ホームページなどで国際関係学部のプログラムについて下調べした上で、自分の希望とのマッチングをある程度述べられるとなお良いでしょう。

第2次選考では、講義の内容を正確に聴き取る能力がまず問われます。さらに講義の内容を踏まえて与えられたテーマにそったグループ・ディスカッションを有効に展開していくためには、様々な現代的課題に関する基礎知識と問題意識を日々磨いておくことが大切です。そして、友人たちと少しまじめなテーマでディスカッションする機会をできるだけ持つようにしましょう。司会進行役やまとめ役を引き受けてみることも大切です。一見対立する意見の中に共通点を見出し、同じ意見だと思っていたのに前提条件が全然違ってびっくりした、といった体験をもってみましょう。国際

関係学部で学習するためには、外国語能力が必要であることはもちろんですが、母語で論理的に議論を展開することができなければ外国語でも読み書きはまともにできません。このことを是非、受験生の皆さんにも認識してほしいと思います。

また、長時間にわたるディスカッションの内容を踏まえて小論文を作成するには、議論の要約力や論理的な文章作成能力も問われます。新聞やメディアを毎日欠かさずチェックし、国際的な問題、さらにそれが日本の政治経済社会にどのような影響があるか、などの点で特に教養的内容の書籍やドキュメンタリーを数多く眼にして、日頃から内外の課題となっている問題について深く考える習慣を身につけましょう。また、物事を客観的にとらえ、自分の考えを論理的に表現する文章作成の訓練も行っておくと良いでしょう。

以上